

社会科シラバス 中学歴史

1. 学習の到達目標と評価の観点

(科目) 歴史	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	週 2 時間	第 2 学年	中学社会歴史的分野(日本文教出版)
学習の到達目標	<p>(1) 人間を取り巻く環境や、身の回りでおこるさまざまな事象、また人間存在そのものに対して自然科学と社会科学両面から幅広い視野を持って探究する姿勢を育て、得られた歴史的知識・読解力など情報を活用する技能を実社会の問題解決に役立てる態度を養う。 (Science)</p> <p>(2) 異なる文化や価値観に対する理解と日本の今日の姿や歴史・文化などに対する理解を深め、それらを尊重しながら、日本に生活の基盤を置く者としての考えや価値観を世界に発信できる力を養い、現在世界で起きているさまざまな問題を解決するために多種多様な人びとと協調できる人間になる。(Global)</p> <p>(3) 歴史の学習活動を通じて、相手の立場に立って考える姿勢を磨くとともに、人文科学・社会科学の基礎的な知識を結びつけ、論理的に活用する能力を獲得し、変化の激しいこれからの時代を生き抜き、明るい未来を切り拓いていくための教養を身につける。 (Liberal Arts)</p>		
評価の観点	<主体性・多様性・協働性>		
	<思考力・判断力・表現力>		
	<知識・技能>		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A : 「十分満足できる」状況と判断されるもの 100%
- B : 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの 80%
- C : 「努力を要する」状況と判断されるもの 60%
- D : 未提出, 未実施 0%

2、学習内容及び評価方法

中学2年生

月	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
4 月 5 月 6 月	第4編 近世の日本と世界 第一部 中世から近世へ 4 秀吉による全国統一 5 秀吉の海外政策 6 安土桃山時代の文化	一体化しつつある世界と日本列島のつながりの中で、日本社会がどのように大きく動いていくのか、織田信長や豊臣秀吉の動向をふまえながら学習し、理解していく。	・豊臣秀吉がどのような社会をつくろうとしたのか説明できる。 ・朝鮮への侵略がもたらした影響について説明できる。 ・安土桃山時代の文化の特徴と、生み出された理由が説明できる。
	第二部 江戸幕府の成立と東アジア 1 全国支配のしくみ 2 朱印船貿易から鎖国へ 3 隣接地域との関係とアイヌ文化の成熟 4 江戸時代の百姓と町人	○江戸幕府の諸政策に着目して、260年にわたる江戸幕府の支配が確立した背景を理解する。 ○朱印船貿易の推進から鎖国の開始まで、対外政策の転換した過程を、その理由を含めて、貿易・宗教・情報の視点に着目して考える。 ○鎖国下の日本の対外交流について整理して理解する。 ○江戸時代の社会の特色について、身分制を中心に理解する。	・安定的な支配を進めるために江戸幕府が行ったことについて説明できる。 ・江戸幕府がいわゆる鎖国政策を行った理由について説明できる。 ・江戸時代の、隣り合う国や地域との関係について説明できる。 ・江戸時代の身分ごとの役割について整理したうえで説明できる。
	第三部 産業の発達と元禄文化 1 産業の発達と都市 2 江戸時代前期の文化と学問	○諸産業の発達とともに交通網が整備され、都市としての形態が整っていったことを理解する。 ○元禄文化や学問の特色を理解するとともに、それらが発展した背景について、社会状況と関連づけながら理解する。	・江戸時代の日本地域について、都市機能に着目しながら、社会状況を理解している。 ・元禄文化や学問の特色を理解している。
	第四部 幕府政治の改革と農村の変化 1 幕府政治の改革 2 農村の変化と民衆の動き 3 江戸時代後期の学問と文化	○江戸幕府における政治改革の内容とともに、改革を行った背景と改革の影響を整理して理解する。 ○商品作物の栽培の広がりや、貨幣経済の浸透による社会変化を理解する。 ○百姓一揆や打ちこわしが増加した背景について、農村の変化や当時の社会状況を関連づけて理解する。	・江戸時代の諸改革について、その背景、内容、影響を理解している。 ・江戸時代中期以降の社会変化や、それが民衆の生活や社会思想、政治にもたらした影響を理解している。

	<p>第5編 第1章 日本の近代化 第一部 欧米の発展とアジアの植民地化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 産業革命 2 王政から議会制へ 3 アメリカの独立とフランス革命 4 新興勢力の台頭 5 ヨーロッパのアジア侵略 <p>第二部 近世から近代へ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ゆらぐ幕府の支配 2 開国 3 江戸幕府の滅亡 	<p>○化政文化や新しい学問の特色を理解するとともに、それらが発達した背景について、社会状況と関連づけながら理解する。</p> <p>○イギリスで産業革命が起きた背景や経緯について理解するとともに、それによって起こった資本主義社会の成立や、社会問題の発生について、その影響とともに理解する。</p> <p>○ヨーロッパにおける政治体制の変化について、議会制の確立や啓蒙思想の発展の影響を含めて理解する。</p> <p>○アメリカの独立やフランス革命が、どんな社会的変革とつながっているのかを理解する。</p> <p>○アメリカ・ロシア・ドイツが領土拡大を目指すまでの経緯を理解する。</p> <p>○国内外の変化とそれに対する幕府の対応、その結果と影響を理解する。</p> <p>○不平等条約が日本の社会や経済にもたらした影響を理解する。</p> <p>○倒幕に至るまでの経緯を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産業革命の背景・内容・影響を理解する。 ・議会制とはなにか理解している。 ・啓蒙思想の内容や代表者を理解している。 ・アメリカ独立革命とフランス革命の理念を、「独立宣言」や「人権宣言」の内容を活用して説明できる。 ・南北戦争の背景と結果を説明できる。 ・ロシアの南下政策とはどのような政策か、説明できる。 ・ドイツがどのように国内政治を整えたのか説明できる。 ・天保の改革の失敗が幕府に対する人々の考えをどう変えたのか説明できる。 ・「日米修好通商条約」を説明できる。 ・幕府批判勢力の動きを説明できる。
<p>9月 10月 11月</p>	<p>第5編 第1章 日本の近代化 第三部 近代国家へのあゆみ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 明治維新 2 殖産興業と富国強兵 3 文明開化の展開 4 近代的な国際関係の形成 5 領土の確定と隣接地域 <p>第四部 立憲制国家の成立</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 士族の反乱と自由民権運動 2 憲法をめぐる対立 	<p>○明治維新で、日本の政治・人々の生活・社会・経済・文化などがどのように変わったのか、江戸時代の社会と比較して理解する。</p> <p>○明治新政府が明治維新で目指したものはなんだったのか、理解する。</p> <p>○日本地図を見ながら、当時の国境の変化を理解する。</p> <p>○なぜ自由民権運動が起こるにいたったのか、理解する。</p> <p>○憲法の制定と国会の開設を巡る諸勢力の考えを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「版籍奉還」と「廃藩置県」の違いを説明できる。 ・「地租改正」に対する民衆の反応を説明できる。 ・当時の日本の国境線を地図に引くことができる。 ・戊辰戦争の影響を説明する。

	<p>3 大日本帝国憲法の制定</p> <p>4 藩閥政府と民主党</p>		<p>・「明治14年の政変」や「秩父事件」がもたらした影響を整理する。</p>
1 月 2 月	<p>第5編</p> <p>第1章 日本の近代化</p> <p>第5部 日清・日露の戦争と東アジアの動き</p> <p>1 列強の動向とアジア</p> <p>2 朝鮮をめぐる対立</p> <p>3 朝鮮・満州を巡る日本とロシアの対立</p> <p>4 日本の朝鮮支配</p> <p>第6部 近代の日本の社会と文化</p> <p>1 日本の産業革命</p> <p>2 社会運動の発展と近代文化の形成</p>	<p>○アジアを巡る帝国主義国家、日本と清の動きを理解する。</p> <p>○日清戦争の影響と、アジアを巡る日本とロシアの動きを理解する。</p> <p>○日本による朝鮮支配の過程と中国の近代化の結果を理解する。</p> <p>○日本の産業革命の進展とこの時期の国民生活の変化を結びつけて考察する。</p> <p>○資本主義の発展は様々な影響をあたえ、労働運動や貧困と抑圧から解放を求める思想が登場したことを考え、表現する。</p>	<p>・帝国主義国家の考えを、これまでの勉強から整理する。</p> <p>・下関条約の内容を説明できる。</p> <p>・ポーツマス条約の内容を説明できる。</p> <p>・朝鮮併合までの経緯と両国の関係を説明できる。</p> <p>・国家の支援を受けて、日本国内で軽工業、重工業が発展していく様子を表現できる。</p> <p>・産業革命の結果として、労働運動や社会運動が発展していったことを説明できる。</p>
評価の観点及び内容			評価方法（具体例）
歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。＜主体性・多様性・協働性＞			ノート提出・課題への取り組み
歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。＜思考力・判断力・表現力＞			定期試験
我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。＜知識・技能＞			定期試験

成績評価の概要

(1) 学期評価の対象

① 定期考査

②ノート提出

③希望者課題

★定期考査未受験の場合、試験実施後に、該当生徒に対して試験問題を送り、期日までの提出があれば、参考素材として素点化(ただし欠席得にならないよう考慮する)し成績に反映させる。提出がない場合は、定期考査は0点となり、②③で成績算出が可能な場合は学期評定をつけるが、算出が難しい場合は、学期評定は空欄となる場合がある。ただし、公欠による試験欠席の場合はこの限りではない。

(2) 学期評定の算出方法

学期ごとに、上記(1)を総合して評価を行う。

(3) 学年評定の算出方法

①各学期に実施する定期考査(年間5回)

②夏休み新聞記事要約課題

③各学期ごとのノート提出

④希望者課題の提出